

総合情報センターだより

CONTENTS

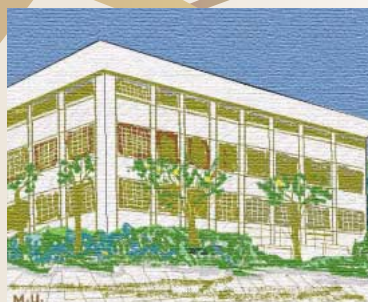
トピック	表紙
学部事務室で進むIT化 学生情報のオンライン化	2
教材作成現場レポート ～英語CALL教材の開発とCALL教室環境の活用～	3
マルチメディア教材の活用レポート	4
コア・データベースの上手な使い方 DialogSelect編 ～海外のNEWSを速く・簡単にみるために～	5
就職活動応援講座 図書館でできる業界・企業研究	6
法律学関連データベースの活用のすすめ	7
図書購入リクエストを利用しよう/インフォメーション	8

20世紀

20世紀に私たちが読んで感動した本、
影響を受けた本はどんなものだったのでしょうか。
21世紀をむかえた今、あらためて読み返してみませんか。

を振り返ってみませんか

こんな期待に応えてくれるシリーズのひとつに、
『PENGUIN BOOKS』があります。
「20世紀のうちに読んでおきたいペンギンの本2000冊」の中から、
みなさんになじみの深いものばかり約600タイトルを
本学の蔵書として厳選しました。ぜひご利用ください。
なお、このシリーズは2001年4月から
メディアセンターに排架予定です。



図書館(衣笠)の開館時間が延長されました

図書館(衣笠)では、2000年11月1日より、開講期間中の開館時間を21時30分から22時までに延長しました。これは、生涯学習・昼夜開講制などの展開に対応し、学習と研究の条件整備の一環として実施するものです。皆さんの図書館利用が一層進むことを期待しています。

学部事務室で進むIT化 — 学生情報のオンライン化

IT (Information Technology) という言葉は昨年あたりから新聞紙上等をよくにぎわしていますが、本学でも一部の学部ですでに、先行的に事務のIT化を実施しています。

今回は、特に積極的にネットワークを利用して情報提供サービスを展開している産業社会学部事務室の塩田事務長に、学部事務室業務のIT化の現状と方向性についてお聞きしました。



産業社会学部 塩田事務長

Information Technology

Q1.

産業社会学部事務室で現在取り組んでいる「IT化」とはどのようなものですか？

Answer 1.

産業社会学部のホームページで休講、教室変更、授業連絡などのさまざまな連絡事項(更新は1日2回)や、講義のレジュメ、履修・成績に関する連絡、英語や演習のクラス発表やガイダンス等の案内や産業社会学部ミニニュース(トピックス)紹介をしています。対外的にも、教員公募の書式や諸証明書申込用紙がホームページから閲覧・ダウンロードできるようにしています。

Q2.

「IT化」をおこなうメリットは何ですか？

Answer 2.

なによりも、事務室や掲示板で確認しなくても、簡単に情報を得ることができることです。帰省している時や、仕事で登校が困難な社会人学生でも、ホームページを通じて必要な情報を得ることができます。われわれ事務室としても、語学や演習のクラス発表など、従来掲示板などでお知らせしてきた内容をホームページで広報することで、窓口の混雑解消にもつながり、丁寧な窓口相談ができるようになったと思います。また、卒業生からの証明書発行請求についてもホームページで手続きなどを広報していますが、電話でのやりとりの簡素化につながりました。

Q3.

今後さらに充実していこうと考える「IT化」とはどのようなものですか？

Answer 3.

メールマガジン形式でのガイダンス・履修などに関する情報の発信、ホームページ上で住所等の変更届受付や授業レジュメ等の閲覧・ダウンロードサービスの拡充をはかりたいと考えています。また、学生と双方向の情報のやり取りを実現するためのクラス掲示板や履修相談などのBBS(プリテン・ボード・システム:電子掲示板)設置や、学生への連絡に電子メールの積極的な活用など、ネットワークをフルに活用したサービスの充実を検討しています。

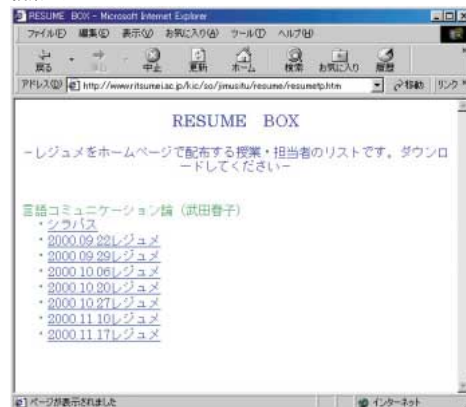
「産業社会学部ホームページ」
<http://www.ritsumei.ac.jp/kic/so/index.html>



休講・教室変更・担当者変更・授業連絡など



授業のレジュメ



英語CALL教材の開発とCALL教室環境の活用

文学部 松田 憲 教授

1. 今回のCALL(Computer Assisted Language Learning)教材開発のねらいと内容

1994年以来、全学的な情報基盤整備と歩調を合わせながらCALL教材開発を開始し、最初の本格的なものとしてはカナダのUBC(University of British Columbia)の協力を得てCampus Life at UBCというCD-ROM形態の教材を完成させることができました。今回はこうした経験を生かしながら第2弾の本格的なCALL教材として、アメリカのCNNニュース番組を主な素材としたネットワーク配信型のマルチメディア教材の開発を開始しました。

教材の基本的な構成は(1)テキスト、(2)通常授業で使用するコンピュータ上のプログラム、(3)小テスト用のコンピュータ上のプログラム、から成り立っています。テキストは、前期2部6課、後期2部6課の合計12課から構成され、他に補充用の追加レッスンが若干準備されています。各課の内容は、例えばOn-line Shoppingといった特定のテーマを設定し、それぞれの課では、単調なドリル作業にしないために、クラス内でのディスカッションなどを取り入れた、双方向型の授業展開となるように心がけることにしました。

コンピュータ上に展開する今回の教材プログラムの主な特徴は以下の通りです。

- ① 教室のWindows NTプラットフォームを前提に、開発言語はOracle Media Talkを使用しました。
- ② ETS(Educational Testing Service)作成のTOEFL/CBTのインターフェースおよび問題形式を取り入れて、TOEFL受験にも役立つように工夫を加えました。
- ③ ビデオ画像のフォーマットは、MPEG-1を使用し、音声データは、MP3形式(MPEG Audio Layer3)を採用しました。再生にはWindows Media Player 6.4を使用しました。
- ④ 教材は、教材サーバー上のプログラム・データを教室の各学生端末で共有利用する形態としました。
- ⑤ 学生の学習履歴や練習問題の成績は、プログラム上で教師への提出ボタンを押すことにより、「課題提出」フォルダを保存先に指定すると、タブ区切り形式のテキストファイルとしてネットワークを経由してサーバーに保存されます。教師はこのデータをエクセルにすぐに読み込み、成績管理ができます。学生の成績データは常に追加書きこみさせることができ、これにより、原則として一人の学生データは1つとして管理できます。

2. 教材の具体的な展開イメージの紹介

学生が使用する教材は、事前に配布した印刷体のテキストと、教室のサーバーに保存されて、各端末で共有使用されるプログラム化された教材の2種で、リスニングや語彙問題などは、テキストには掲載せず学生は直接音声聞き取りにより解答する形式になっています。

文章並び替え問題カード(Reading)

学生の解答に対する判定スコアは、教室サーバーで管理していますが、学生は各セクションごとに正誤情報をチェックして印刷およびデータ保存ができるようになっています。

成績メニューカード

Lesson No.	Section	Question	Correct from 10	Correct %
Lesson 1	Reading	0.1 Topic of the passage	1	
		0.2 admission (Vocab)	1	
		0.3 Paragraphs 2-4	0	
		0.4 standardized test	0	
		0.5 considerably (Vocab)	1	
		0.6 standardized test	1	
		0.7 Inference from para 6	1	
		0.8 statement of para 7	1	
		0.9 word reference in [7]	1	
		0.10 Description of GPA	1	
			8	80 %

3. まとめ

今年度は、CNN-Newsroom番組の著作権が、教育目的使用に限り自由になっていることもあって、衣笠キャンパスでは前期セメスタから文学部が、びわこ・くさつキャンパスでは後期セメスタから理工学部が独自に開発したCALLの教材にCNN-Newsroomを組み込むことを決め、各学部の専門に関連するようなテーマを精選し、授業に利用しています。このクラスの授業は現在進行中で、まだ学生の反応などは完全な形で集約できていませんが、第1セメスタ終了時に、

筆者等が担当した4クラスを対象にした授業アンケート調査では、約8割の学習者が外国文化・歴史・社会に関心や興味が深まったとし、テキストについても、「とても適切」「大体適切」であると感じている者が97%と高く、授業内容に興味・関心が「大いにもてた」「比較的にもてた」と感じた者も89%にのぼっています。新しい外国語教育プログラム導入の初年度の経験を次年度に活かして、教育および学習環境をより改善していきたいものです。

マルチメディア教材の活用レポート

教育研究システム課では、授業で活用できる視聴覚教材を多数そろえています。今回は、文学部土田宣明助教授(心理学)にこれらの教材の活用事例についてお話をうかがいました。

Q1. 視聴覚教材を授業で、どの程度活用されていますか？

先生 「ひとつの講義につき2週間に1度の割合で使用しています。(ビデオ教材を)その回の講義に関わる部分、10～15分程度使用して講義を行っています。長時間の利用は逆に退屈してしまうので、工夫が必要です。」

Q1. 視聴覚教材のメリットはどのような点でしょうか？

先生 「心理学は実証的な学問であり、実験の風景などを映像で見ることは学生の理解に役に立っています。テキスト理解の補助の意味でもビデオの教材の利用は有効です。」

Q1. 学生の反応などはいかがですか？

先生 「学生には好評で、たいへん興味をもってビデオ教材を見てくれています。」

Q1. 教育研究システム課が行っている視聴覚教材購入申込みはどのように利用していますか？

先生 「心理学の先生の中で授業に必要なものを選定して購入希望を出しています。個人では、なかなか買えない高価な教材を用意できる点で、利用しております。」

(お忙しい中、ご協力ありがとうございました。)



文学部 土田 宣明 助教授
(心理学)

マルチメディア教材作成支援の設備、機器類をご利用ください

授業で利用できる視聴覚教材(各国の映画、語学教材等のビデオテープ、オーディオカセットなど約4,000タイトル)は総合情報センターホームページの「視聴覚資料検索」から調べることができます。

「こんな視聴覚教材が欲しい。」などのご意見や視聴覚教材の利用は、教育研究システム課(衣笠:有心館1F、BKC:アクロスウィング2F)窓口でお申し出ください。

教育研究システム課が
貸出している機器を
ご利用ください。

マルチメディア教材作成支援の目的で、メディアラボが各キャンパス(衣笠:有心館1F<メディアラボ>、オーディオビジュアルラボラトリー1F、BKC:アクロスウィング1F<メディアラボ3>、イーストウイング1F<メディアラボ1>)にあります。メディア変換やビデオ編集などの機能をそろえています。

ビデオカメラ・デジタルカメラ・液晶プロジェクター等の機器の貸出しを希望される場合は、窓口でお申し出下さい。

多くの教室にはビデオデッキがあり、学生に見やすいようにモニターも設置されています。また、パソコンを含めた各種メディアが利用できる大型プロジェクター設置教室(衣笠キャンパスでは、存心館701教室、明学館95教室、恒心館730教室、以学館3号教室、以学館5号教室、洋洋館956教室等。びわこ・くさつキャンパスでは、コーニングC107号、C205号、C302号教室等)もありますので、多彩な映像資料を活用した授業ができます。





海外のNEWSを速く・簡単にみるために

今回は学内に無料で提供されているコア・データベースのなかから、“DialogSelect”の機能の一部である“DialogNews”をご紹介します。ご存知のように世界の情報の多くは英語で配信されています。日本の新聞情報だけではグローバルな視野とはいえないでしょう。このデータベースでぜひ海外のTop Newsに親しんでください。DialogSelectは米国Dialog社のデータベースサービスの中から約300種のデータベースが厳選され、著名な学術雑誌(そのうち4,000点以上は全文情報)、世界的な新聞・ニュース情報を提供しています。下記は検索例ですが、学習・研究にぜひ応用してください。なお、このサービスはキャンパスネットワークRAINBOW経由で総合情報センターのホームページからのみご利用になれます。Subaccountの入力等、詳細についてはホームページ(<http://www.ritsumei.ac.jp/www-lib/sogo/dialog.htm>)をご覧ください。

海外のメジャー紙で「イチロー」のマスコミ評価にアクセスしてみよう!



DialogSelect <http://www.dialogselect.com/main.html> へ接続

総合情報センターホームページ
「データベース検索」からも
アクセス可能!

メインページから、カテゴリ「DialogNews」を選択

サブカテゴリ「Newspapers Fulltext」を選択

発行部数の多い
米国の新聞を選ぶ!

米国以外(アジア・太平洋地域、
カナダ、イギリス)の新聞を選ぶ!

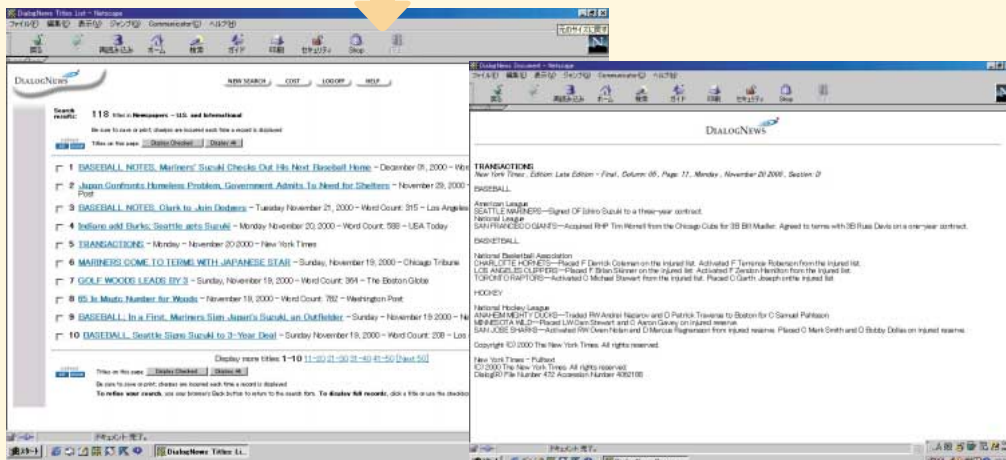
「US」の下の「Major」を選択

「Asia-Pacific」「Canada」「UK」を選択

検索フォームに従って、「**ichiro**」と入力 < search > < Subaccount > < search >

- * Sourcesで「ALL」のチェックBOXをON(あるいは、各新聞紙名を選択)
- * 期間をYearで選択(NewYork Times等、米国メジャー紙は1981年～現在まで検索可能)

タイトルリストから見たい記事を選択後、
「DisplayChecked」ボタンを押すと文献表示!



就職活動応援講座 — 図書館でできる業界・企業研究

「総合情報センターだより」の第92号(2000年10月発行)では、インターネットを活用した就職情報収集について紹介しましたが、今回は、図書・雑誌を活用した業界・企業研究について紹介します。

業界・企業の基本的データを知りたい時は“白書・統計コーナー”へ!!

本のタイトル	内容紹介	本のタイトル	内容紹介
「会社四季報」	各企業の特徴・事業内容・業績等を掲載 会社四季報未上場版・学生就職版等も参考にして下さい。	「外資系企業総覧」	外資系企業主要3,300社の資本金、外資比率、事業内容を掲載。
「会社年鑑」	全上場会社の財務内容を含めた会社概要を掲載。	「市場占有率」	市場におけるシェアを掲載。
「会社総鑑」	未上場会社22,000社の財務内容を含めた会社概要を掲載。	「流通会社年鑑」	百貨店、飲食業、ホテル等の流通会社の各種データを掲載。
「日本の会社」	資本金、売上高、従業員数、法人所得番付等を掲載。	「日経金融年報」	各金融機関の経営内容を掲載。
		「外資系企業就職ハンドブック」	外資系企業就職事情や採用状況、活動方法等を掲載。

これらの本は、どんな業界があるのかが知りたいときなどに役立ちます。広く浅く業界・企業研究をしたいときにオススメです。

もっと詳しい業界・企業の情報を知りたい時!

図書館で業界・企業研究をする方法としては、インターネットだけでなく、本・雑誌・新聞などから情報収集・企業研究をすることができます。それぞれの特徴を簡単に紹介します。

本を読む

図書館には、業界・企業について書かれた本が多くあります。メディアライブラリーには社史(企業の歴史についての本)も多くあります。発行頻度から考えて、情報は新聞・雑誌に比較すると最新でない場合が多いですが、新聞・雑誌では得られない詳しい情報が入手できます。

雑誌を読む

日経ビジネスや週刊ダイヤモンド等のビジネス雑誌には、比較的新しい業界・企業情報が掲載されます。発行頻度は新聞に比べると少なく、情報は最新ではありませんが、詳しい情報が入手できます。

新聞を読む

新聞からは最も新しい情報を入手することができます。ただし、本や雑誌などと総合してその情報を整理する必要があります。日頃から新聞に目をとおすことを日課にし、業界・企業情報についてチェックしておく必要があります。

上の方法の中でも、特に、本を読むことによって、新聞や雑誌では得られない詳しい情報(企業風土等)が入手できます。企業には歴史があり、そのときどきの社会・経済状況などで方向性を変えています。その変化の積み重ねが企業のカラーを作ります。そのカラーについては、本以外のメディアでも知ることができますが、どのようにしてそのカラーになったかは、本を読まないとなかなか知ることができません。その企業や業界についてより詳しく知りたければ、本を読むことが不可欠といえます。

特定業界・企業の雑誌記事の探し方

CD-ROM雑誌記事索引(1985年1月～2000年7月までの雑誌記事を収録)端末で検索してみましょう。この端末は図書館(衣笠)・メディアライブラリーに設置されています。企業名などのキーワードを入力して、その企業名がある雑誌論文を探します。見たい論文の掲載雑誌がわかれば次は、RUNNERSに掲載雑誌名を入力して下さい。もちろん掲載巻号数のチェックも忘れずに。



情報を活用するための アドバイス

入手した情報は活用しなければ、意味がありません。業界・企業研究ノートで就職活動を実りあるものにして下さい。

業界・企業研究ノートを作るポイント

- ① 業界研究と企業研究は分ける。
- ② 業界研究は各社の特徴がわかるように工夫する。
- ③ 企業研究のページは訪問日誌と連動して記載する。
- ④ スクラップには出典を明記する。

最後に、就職活動は業界・企業研究だけで成功するものではありません。キャリアセンターと連絡をとりながら、自分自身の満足いく就職を目指して下さい。

法律学関連 データベースの 活用のすすめ

法律学関係のデータベースがより使いやすく拡充されました。
図書館(衣笠)では従来の「法律判例文献情報」に加え、
あらたに「判例体系」「現行法規」の法情報CD-ROMをオンラインで
提供し利用者に大変好評です。使い方は画面の指示に従えば簡単です。
法学部の方に限らずぜひ活用してください。

このたび、法学部と総合情報センターの協力により、法律学関連のデータベースの利用がより拡大し使いやすいものとなった。ひとつは利用可能なデータベースの種類が増えたことで、「法律判例文献情報」に加えて「電子版現行法規」や「判例体系」などのCD-ROMデータベースが図書館でもLANを介して使えるようになったこと。もうひとつは、従来は図書館の限られたPCからしか利用できなかったデータベースが、法政情報処理などの講義においても、教室で利用できるようになったことである。これにより、法学部や法学研究科の講義で、既にオンラインで提供されている商用データベースに加え、これら日本の法律・判例のCD-ROMデータベースを利用することが可能になった。法学部学生や院生などの法律学に関する情報リテラシーのいっそうの向上に役立つものと思われる。

このようなデータベースの利用に習熟することは、少なくとも現代では、法律学の多くの分野で、研究者、学生、あるいは法律実務家にとっても常識に属するといつて過言ではなからう。法律学においては、普通、自分の捜したいテーマに関する、判例・法令・論文や著書などの文献を適切に探し出すことが、最初の重要なステップだからである。したがって、関連する法律情報を確実に収集する能力を身につけることは法律学の学習にとっては重要である。本学で上記のようなデータベースの整備が進み、その利用が広がったことは、法学部の学生や院生にとって、データベースに触れる機会が増え、情報収集力の向上に寄与することになる。というのも、データベースの利用のノウハウは、解説を読んだり聞いたりす

るだけでは身につかないからである。

もちろん、これらデータベースは完全ではなく過信することは危険なこともある。多くのデータベースは戦前などの古い資料については不十分であるし、データベース自体にも見落としがないわけではない。けれども、全117冊に達する「現行法規総覧」や刊行以来約530冊におよぶ冊子体の「判例体系」など、膨大な情報と相互補完的に活用できるデータベースが容易に使えることは大きな意味がある。学習や研究の出発点と言ってよいであろう。これを機会に、ぜひ多くの学生諸君がデータベースにふれ、その利用に慣れてもらいたいものである。



法学部
北村 和生 助教授

【電子版】現行法規とは...

加除式総合法規集である「現行法規総覧」が情報ソースで、参照条文の注記を収録しているので法令相互の関連がわかります。各法令ごとに改正年月日・法令番号等を収録しているので、改正経過が明らかです。現行条文と並列して未施行条文も収録されています。

法律判例文献情報とは...

昭和55年以降の、法律新刊図書、法律専門雑誌、研究紀要・論文、判例情報誌、新聞の法律判例関係論文・対談等から、約26万件を収録しています。

判例体系CD-ROMとは...

「判例要旨」(28万件)「判例本文」(9万5千件)「判例書誌」(12万5千件)の判例情報全てを収録し、相互にハイパーリンクしています。

法学資料リスト <http://www.cc.matsuyama-u.ac.jp/%7Eelaw/e-materials/index-j.html>

法学を学ぶ際に参照することの多い文献を定期刊行物を中心に紹介しているサイトです。資料の外観がわかるので文献を探すときに便利です。

法情報の検索 <http://www.law.osaka-u.ac.jp/%7Ekado/chapter3.htm>

法学関係文献の検索ツール一覧が公開されています。

2000年12月現在

図書購入リクエストを利用しよう!!



2000年度購入リクエスト受付状況

	リクエスト総数	購入する	購入しない
図書館	71件	24件	47件
メディアセンター	156件	117件	39件
メディアライブラリー	100件	54件	46件

《購入しない主な理由》

購入希望の図書はすでに所蔵している。
本学の収書方針に合わない。
リクエスト用紙の記入が不完全で該当の図書が特定できない。など

購入希望はメールでも受付けています。

総合情報センターホームページ(<http://www.ritsumei.ac.jp/www-lib>)から各館にアクセスしてください。

【メール記入項目】1.氏名、2.所属、3.購入希望館、4.連絡方法、5.購入希望図書内容、6.(書名・著者名・出版社・出版年・価格)

【メールアドレス】図書館(衣笠)..... lib-requ@st.ritsumei.ac.jp(衣笠情報サービス課)
メディアセンター(BKC)..... media@ritsumei.ac.jp(BKC情報サービス課:理系)
メディアライブラリー(BKC)..... medialib@ritsumei.ac.jp(BKC情報サービス課:社系)

I N F O R M A T I O N

図書返却のお願い

2001年3月で卒業・修了される方は3月13日までに、有効期限が2001年3月31日のライブラリーカードをお持ちの方は、3月30日までに貸出中の資料をすべて返却してください。

卒業・修了後の 図書館利用について

卒業・修了後は校友として引き続き図書館を利用することができます。ぜひご利用ください。カードの発行手続きについては、総合情報センターのホームページまたは掲示板をご覧ください。

図書館利用者カードの 更新について

単年度登録されている方は、2001年3月31日が有効期限です。4月以降の利用を希望される方は、更新手続きを行ってください。手続きは3月下旬からできます。詳しくは、総合情報センターのホームページまたは掲示板をご覧ください。

